

友

314号

2021年1月号

新渡戸稲造記念講演

フレンズセンターの思い出

出会いと喜びを語る

畠中ルイザ

私はフィラデルフィア郊外にあるジョージズスクールに入学しました。勉強熱心な学校でしたが、遊ぶことも上手でした。高校卒業にあたって生徒は作文を書きます。私の同級生のテーマは「礼拝出席は強制するものではない」でした。それは礼拝の意味を考える機会になりました。

高校を卒業して、スワスモア大学に入学しました。高校大学時代の60年代は、ジョン・F・ケネディ大統領、マルティン・ルーサー・キング牧師、ロバート・ケネディ上院議員が暗殺され、ベトナム戦争拡大、学生運動などで、落ち着いて勉強できませんでした。キング牧師が暗殺された時は、大学で一日中沈黙礼拝が行われ、とても悲しい一日でした。学生は抽選で徴兵されました。同級生の中には、カナダに亡命したり、

くすしきみ恵み われを救い

まよいしこの身も たちかえりぬ

おそれを信仰に 変えたまいし

わが主のみ恵み とうときかな

讃美歌 21 451番

徴兵を忌避して刑務所に収監された人もいました。良心的兵役拒否をする学生には、先生や友人が証明書類を作成しました。私も友だちのため書きましたが、その人は退学して、2年間病院で代替勤務をしました。

70年、大学を卒業したとき、このような生活から離れたかったことと、広い世界を見たいという気持ちもあり、普連土学園の教師に応募しました。面接官はエスター・B・ローズやサラ・スワンなどの数人の婦人たちで、みんな戦前から日本のフレンズとかかわりがあって、日本を大切に思っている人たちでした。

日本で住むことになったフレンズセンター（FC）主事の小堀雅さんには、数え切れないほどのことを教えてもらいました。炊飯器の米粒を残さず食べることに、短い紐まで捨けないで物を大切にすること、忙しくても人の話を聞くことを学びました。彼女はFCで、いつもお客さまを温かく迎え、朝夕の食事を作って、献身的に奉仕をしていました。

80年、私はFCの主事になり、夫と6歳、2歳の娘とともに住みました。今のように電子メールがないので、宿泊者との連絡にも苦労しました。そして8月には、世界のフレンズがFCを経由して広島・長崎に行きました。日誌を見ると、84年8月は34人が宿泊し、1人平均4日間滞在しました。団体は会堂に寝て、シャワーと朝食はFCを使ったので、まさにモンスター月でした。私たちが主事をして4年間に550人（15か国）が宿泊しました。

びでした。AFSCは4、5名を北朝鮮の実情を把握するために派遣しました。チームに分かれて北朝鮮各地で調査を終えた後、FCに集まり、2週間滞在して、それぞれが調査したことをレポートにまとめました。彼らにはFCで落ち着いて作業ができたと感じられました。このようにFCは、その時代その時代に重要な役割を果たしてきました。

日本年会が建物の維持に苦労していることを知っています。建物は人が住まなければ朽ちていきます。私はFCが好きです。この建物をどうするかを慎重に考えてほしいと思います。

窓

ずっと以前、会堂のオーブンハウスに参加された御老人が天井を見上げて

「いやー良いですなー」と仰しゃる。聞けば無教会の方であるからして、集う場所が定まっていなくて、個人宅や貸ホールを都合しているらしかった。難儀な事である。これまた、だいぶ前、小柄な中国系の方だったが、オーストラリアの会員の方が来水された。会堂が幼稚園として使われ、平日も人の出入りがあることを大変うれやましいと言われた。彼女の会堂の周辺は、すでにさびれて、日

曜礼拝会のみを集会所としての維持管理が厳しいということだった。

安心して集える場所と生業が与えられているとは、なんと有り難いことか。十年前の東日本大震災で、一度更地になったものの立派に再建され、幼子達が日々元気に通園している。「昔、主イエスの播きたまいし、いとも小さき生命の種、芽生え育ちて、地の果てまで、その枝を張る樹とはなりぬ」（讃美歌234番）新型コロナウイルスが再度発令されました。みなさんお元気で。

(加畑暁美)

コロナ禍の中でどのように信仰を深めているか

2020年年会総会を新型コロナウイルス感染症が収束しないなかで、11月21日～22日、土浦月会会堂で開催しました。会場参加18人に加えて、Zoomによる参加も12人ありました。話し合いでは、各月会が「コロナ禍の中でどのように信仰を深めているか」をテーマに発表しました。

大阪月会

大阪月会では、3月からZoomによる礼拝会を開催してきました。遠方でもなかなか参加するのが困難な会員や会友の方々にも参加していただいて、お互いに繋がる時間を持つことができたのは嬉しいことでした。

黙想の家では、緊急事態宣言後も施設の利用を許可していただき、オンラインのみの礼拝会は、4月から6月まで、7月には黙想の家で数人集まりオンライン礼拝と同時に行了ないました。会員同士の連絡もFacebookやメールで行ない、お互いの近況も知ることができました。

緊急事態宣言後、オンライン礼拝会をするのを自然な流れと思えたのは、私自身、この十数年AWPSの委員会活動がいつもオンラインで行われていたことに起因すると思います。そしてアジア地域でコロナウイルス感染拡大がどのような影響を与えているのかを知り、日本がどのような状況であるかを伝えることも

きました。

World Quaker Dayでは、スイスジュネーブのQUNOの方が活動の講演を、AWPSはオンラインセミナーを開催し、オーストラリア、ニュージーランドをはじめインドや香港、韓国から多くの参加者と共に繋がりが、グローバルなフレンズとの連携を感じることができました。

コロナ禍は、私にとって人とのつながりについて考えることと自身自身をふりかえる機会になりました。

(上村バックス尚美)

土浦月会

年間聖句に支えられて

フィリピの信徒への手紙1章9節から10節を年間聖句として決定したのは2019年12月のことで、開けて2020年が新型コロナウイルスによって世界中の人間が悩まされようとは予想もしなかったことでした。この聖句により私たちは、この新し

い現実を正しくとらえようと努め、常に何が大事かを考え、出来る限りの対応をして、この会堂での礼拝会を1回も休まず守って来ました。

コロナウイルス禍への具体的対応

3密(密閉・密接・密集)回避の工夫と努力、各自常時のマスク着用、

礼拝中は窓・ドア等の全開(3月11月初)、礼拝時間の短縮(60分から30分に)、行事等の中止(イースター礼拝会・月会修養会・月会総会

は実施)、会堂での飲食をやめ、教会学校、大下牧師の聖書の話を一時休止、薬物依存症自助グループ関係(外部)の集会も休止とし、これは今なお再開されていません。

募金活動の実施

コロナ禍で経済的影響を受けて



2020年 年会総会

於 土浦月会会堂

いる人たちへの募金活動を実施、教会学校の生徒も参加しました。募金額は予想以上で、茨城ダルク・フードバンク茨城(欠食児童支援)、九州の水害地にも日赤茨城支部を通して寄付ができました。日曜学校担当者が生徒さんたちに説明をした時、みんなが一斉に歓声を上げたことは非常に印象的でした。

現在の状況

年会総会は無事終了しましたが、地域では新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。まだ当分はウイルスと共に緊張した生活が続くものと思われまます。ただひたすら忍耐が求められる時、この会堂で礼拝の時が持てることは、言葉に尽くせない感謝です。

(川田敏子)

東京月会

クラスターが起きれば、社会的にも非難を免れません。しかし、東京月会は事務会で話し合い、「できる限りの感染予防策をとり、通常どおり日常生活を維持しよう」と決めました。それは次のような理由です。①会員以外の参加者が多く、突然やってくる人もある。それらの人のために、開けておく。②コロナによって精神的不安やストレスのある人に、

静かな祈りの場を提供する。③ともに礼拝することで信仰が強められる。しかし、感染しやすい病弱者や高齢者、乳幼児がいる会員への配慮が必要です。そこに若い会員から、オンラインによる礼拝が提案され、4月から礼拝のZoom中継を開始しました。毎週7〜10人ほど、会堂出席者とはほぼ同数が参加しています。

オンライン礼拝のメリットは、①会堂、Zoom参加者の双方から感話があり、一体感をもてる。②これまで仕事や遠隔地（米国、滋賀、大阪、島根）居住で出席できなかった人も参加できる。③家族に乳児や高齢者、病気の人がいて、感染を恐れている人もZoomなら参加できる。④クエーカーに関心を持つ人への伝道になる。などがあげられます。

コロナ後も、オンライン礼拝を続けていきたいと考えています。ただし、感話で個人的なことを話す場合もあるので、IDは、一般には公開しません。

（伊藤めぐみ）

水戸月会

水戸月会は、4、5月の1か月ほど礼拝会を中止しました。再開した際、皆で集い共に過ごす礼拝の重要性を再認識したと、徳田さんから報

告いただきました。私もなかなか礼拝に出られない現在の自分の状況において同じ思いです。

個人的にはコロナ禍で信仰が深まったとは言えませんが、これまで細々とでも友会につながり培ってきたものが、蓄えとしてこの状況で役立つ

親愛なる世界の友へ

キリスト友会日本年会は、2020年11月21〜22日、「知る力と見抜く力とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり、本当に重要なことを見分けることができますように」（フィリピの信徒への手紙1…9〜10）をテーマに、土浦月会会堂において定期総会を開催した。

新型コロナウイルス禍の中での総会開催であったが、神の導きと恵みによって30名（Zoom参加12名を含む）が出席したことは感謝である。とくに今年はオンラインによって、地理的な隔た

一般書簡

りを越えて、大阪や水戸の会員とも顔を合わせて意見交換ができた。話し合いⅠにおいて、「アネットワークの活用および東京月会の将来について」を話し合った。東京月会会堂を普連土学園敷地内に移転するという提案に対して、意見交換が行われた。これを受けて、事務会にお

たように感じています。ジョージ・フォックスの書簡の中にこんな言葉がありました。「さまざまなことを考えて焦らないように心がけ、それらすべてを超えた神の力のなかで生活するようにしなさい。」

不安が高まったり、ずるずる落ち

いて「東京月会会堂および年会所有地の将来計画検討委員会」を設置することを決定した。

また、事務会において、2019年の活動状況および決算報告ならびに2020年の活動計画と予算を承認した。

続いて、話し合いⅡにおいて、「コロナ禍の中でどのように信仰を深めているか」のテーマで、4つの月会から報告があった。土浦月会では、コロナ禍で困難な状況にある人々への献金を行った。日曜学校に通っている児童も、自らの献金が役に立つことがわかり、みな顔が輝いた。

東京月会では、会堂での礼拝とZoomによる礼拝を続けている。礼拝に集うことによって信仰が強められ、不安やストレスを抱える人たちにも、静かな祈りの場を提供する意味があると考えた。大阪月会もZoomによる礼拝会を月1回行い、海外とのつながりを強めている。また、インター

込むような状態の時も、人間の様々な思いを超えたところのものとながりに心を向ける自分がいて、それが歯止めとなって、やり過ごすことができたように思いました。

（南部雅美）

ネットに接続してなくても、同じ時間帯に各自が自宅で静かな時間を共に過ごす意味をあらためて意識した。水戸月会は一時期礼拝を休んでいたが、再開したときに共に集まって礼拝することが大切だとあらためて感じ、会員同士の繋がりと信仰も強まった。各月会とも、感染予防に努めながら、礼拝を続ける努力をしている。

また、新渡戸稲造記念講演は畠中ルイザさんが、普連土学園の英会話講師として来日して以来、フレンズセンターの主事として、多くのフレンドと交わった思い出を語った。

いまだ新型コロナウイルスの猛威が終息しない中で、世界の人々とフレンドの心の平安と健康を祈っている。

2020年11月22日

キリスト友会日本年会
代表書記 武田眞知子

三人の先達を偲んで

大津光男

主に教育や社会福祉事業等に生涯をかけたクエーカーとして信仰生活を送っていた三人の先達が、2020年の後半にこの世での働きを終えられた。私がこの三先達に初めて会ったのは、それぞれ異なった時・所であった。が、ちょうど同じ所で顔を合わせたのは、宣教70年記念を祝った昭和31年の年会総会だった。当時私は、まだ高校1年で会員になつていなかったが、ヤングフレンズも出席可能になり上京して東京月会会堂でお会いしたのである。

さて、この三先達とは、7月30日に93歳で召された桐生富久さん、8月22日に、110歳で永眠された福西基さん、10月15日に98歳で長逝された小泉文子さんである。三先達の主な働きを述べると、桐生さんは、戸山月会に長い間代表として携わり、社会福祉法人日本フレンズ奉仕団が保育園と特別養護老人ホームやデイサービスセンターを開設した時、理事や職員として直接事務に従事し献身されていた。福西さんは105歳まで小友幼稚園長を

桐生富久さん



小泉文子さん



担い、男性長寿日本一ともなつた。前職は公立学校で校長を務められ、下妻月会の精神的支柱であった。小泉さんは、終身宗教法人水戸基督友会の代表であり、少友幼稚園の園長・理事長や理事・顧問を歴任された。

ところで、昭和35年に水戸で会員になった私は、昭和35年から早稲田に近い戸山月会の礼拝会に参加していた。その後、名古屋で過ごし、昭和43年に胃を切除し、下妻で療養していた数か月間は下妻の礼拝会に出席した。昭和49年に東京に転勤してからは、日本年会で福西さんや桐生さんの議長時代には記録書記や監事などの役割で、自分なりに微力を尽くしたつもりである。

昭和60年、普連土学園に転職した私にとって、桐生さんと福西さんは当時評議員として、また、時期は違うが議長として尽力していただき、小泉さんは1期4年間だけではあったが校長として私の上司でもあった。また、普連土学園に転職した日と全く同日に少友幼稚園が学校法人として認可を得たので、その時園長の小泉さんに請われて理事となり、現在に至っている。

3人の晩年にはお会いする機会も減った。が、少なくとも半世紀以上、3人の先達から学んだことは多い。桐生さんからは歴史の大切さを、小泉さんからは記録をきちんと残しておくことを学び、福西さんはどんな境遇にあっても我慢強く忍耐することとを示してくれた。異なったタイプの三先達の信仰のあらわれ方ではあったが、クエーカーの多様性について生き方を通して教えていただけた。ここに三人を偲び安らかなる眠りを祈っている。

(水戸月会)

義父福西基を想う

浅野房雄

福西基は、「今日も生かされている……」「長生きはこの世の務めがまだ、あるということかな……」とよく口にし、そして、よく食べて110歳4か月のこの世のいのちを生きた。



福西基に乗るプランコ

大事にしていた会堂の木彫り額の聖句「飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。」(イコリ10・31)の実践の姿だったと思う。百歳を過ぎても一番に幼稚園に出

勤し、遅くまで仕事をしていたあのエネルギーは、旧制中学生のときにキリスト教信仰への導きを受け、帰米の際に幼稚園のあとを託されたビンフォルドご夫妻への忠実な心と、友会信仰の証しとであったのかなと思う。

聖書という本があることを教えてくれた私の中学生のときの教頭先生、後に三女と結婚し生活を共にする中で、信仰を持って生きることのすばらしさと大事さを生きざままで教えてくれた義父。この恵みに改めて感謝をしている。

(下妻月会)

編集後記

今号では、コロナ禍における各月の取り組みが紹介された。いつ果てるとも知れないウイルスとの戦いで、世の中全体に閉塞感が漂っている。

そんな中でも、会員一人一人が納得する無理のない形での礼拝が続けられれば、と思う。明けない夜はないことを信じて。(由香里)

発行 キリスト友会日本年会

東京都港区三田4-8-19

TEL・FAX 03(3451)7002

編集

南部雅美・伊藤めぐみ・加

香里

畑暁美・鯉淵博子・山田由